

# Sun Java™ System Calendar Server リリースノート

## バージョン 6 2004Q2

Part No. 817-7082

このリリースノートには、Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 のリリース時点で利用可能な次のような重要な情報が記載されています。

- [2 ページの「Calendar Server バージョン 6 2004Q2 について」](#)
- [2 ページの「Calendar Server 6 2004Q2 の新機能」](#)
- [10 ページの「ハードウェアおよびソフトウェア要件と推奨事項」](#)
- [11 ページの「インストール前の注意事項」](#)
- [20 ページの「既知の問題と制限事項」](#)
- [38 ページの「再配布可能なファイル」](#)
- [44 ページの「Communications Express」](#)
- [52 ページの「User Management Utility」](#)
- [56 ページの「Connector for Microsoft Outlook」](#)
- [57 ページの「問題の報告とフィードバックの方法」](#)
- [58 ページの「コメントの送付先」](#)
- [58 ページの「Sun が提供しているその他のリソース」](#)

このリリースノートを読んでから、Calendar Server をインストールして設定してください。

Sun Java™ System Calendar Server の以前の名称は Sun™ ONE Calendar Server でした。

---

# Calendar Server バージョン 6 2004Q2 について

Calendar Server は、企業やサービスプロバイダのカレンダーおよびスケジュールの管理を集中化するためのスケーラブルな Web ベースのソリューションです。Calendar Server は、予定と仕事の両方に対応する個人用カレンダーとグループカレンダー、および会議室や備品などのリソース用のカレンダーをサポートしています。新機能の一覧については、次の節「[Calendar Server 6 2004Q2 の新機能](#)」を参照してください。

Calendar Server は、Calendar Express と新しい Communications Express の 2 つのグラフィカルユーザーインターフェースを提供します。また、Calendar Server を使用すると、顧客は Web カレンダーアクセスプロトコル (WCAP) を使用してカレンダーデータに直接アクセスする際に、text/calendar 形式または text/xml 形式を柔軟に選択できます。

---

## Calendar Server 6 2004Q2 の新機能

Calendar Server 6 2004Q2 には、次の変更と新しい機能が含まれています。

- [3 ページの「Linux プラットフォームのサポート」](#)
- [4 ページの「インストールの変更」](#)
- [4 ページの「設定の変更」](#)
- [5 ページの「新しいデータベースバージョン」](#)
- [5 ページの「定期的な予定用の新しい移行ユーティリティ」](#)
- [6 ページの「Web カレンダーアクセスプロトコル \(WCAP\) の変更」](#)
  - [既存の WCAP コマンドの拡張機能](#)
  - [4 つの新しい WCAP コマンド](#)
- [8 ページの「Communications Express - 新しいクライアントユーザーインターフェース」](#)
- [9 ページの「Calendar Server 6 2004Q2 で修正済みの既知の問題」](#)

## Linux プラットフォームのサポート

Java Enterprise System を Linux プラットフォームで使用できるようになりました。ユーザーの観点からの主な違いは、製品ディレクトリのインストール先のパス名です。Linux プラットフォームでは、Solaris プラットフォームとは異なるディレクトリにインストールされます。

次にデフォルトのインストール場所を示します。

- [Calendar Server](#)
- [Communications Express](#)
- [User Management Utility](#)

### Calendar Server

次の表は、両方のプラットフォームで Calendar Server のディレクトリパスを比較しています。

表 1 Linux プラットフォームと Solaris プラットフォームのディレクトリパスの比較

Solaris ディレクトリ	Linux ディレクトリ *
/opt/SUNWics5/cal/	/opt/sun/calendar
/etc/opt/SUNWics5/config	/etc/opt/sun/
/var/opt/SUNWics5	/var/opt/sun/

\* Linux の場合: Calendar Server 以外のその他の Java Enterprise System コンポーネント製品はさまざまな ../sun ディレクトリにインストールされるので、それらの ../sun ディレクトリ下に Calendar Server ファイル専用のディレクトリを作成できます。たとえば、次のように入力します。/etc/opt/sun/calendar

### Communications Express

Linux での Communications Express のデフォルトのインストール場所は次のとおりです。

```
/opt/sun/uwc
```

### User Management Utility

```
/opt/sun/comms/commcli
```

## インストールの変更

Calendar Server インストーラは廃止されました。Sun Java Enterprise System インストーラを使用する必要があります。このインストーラで、その他の Sun コンポーネント製品およびパッケージもインストールできます。

そのため、『Calendar Server Installation Guide』は廃止になり、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 インストールガイド』に取って代わられました。

インストール後の情報 ( 設定 ) は、現在では『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド』に記載されています。

## 設定の変更

Sun Java Enterprise System インストーラを使用して Calendar Server 6 2004Q2 を正常にインストールしたあと、Calendar Server の設定を別の手順として実行します。次の 2 つの設定プログラムを実行する必要があります。

- `comm_dssetup.pl`
- `csconfigurator.sh`

これら 2 つの設定プログラムの実行方法に関する設定上の問題と手順については、『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド』を参照してください。

新しい Communications Express ユーザーインターフェース (UI) をインストールする場合は、そのために個別の設定プログラムを実行する必要がありますので注意してください。設定プログラムの実行方法については、『Sun Java System Communications Express 6 2004Q2 管理ガイド』を参照してください。

Communications Express UI の詳細については、「[Communications Express - 新しいクライアントユーザーインターフェース](#)」を参照してください。

## 新しいデータベースバージョン

Calendar Server 6 2004Q2 は、Berkeley DB バージョン 4.2 を使用します。Calendar Server 6 2004Q2 から新しく使用する場合は、移行サービスは必要ありません。

Calendar Server 6.0 を Berkeley DB バージョン 3.2.9 とともにインストール済みの場合は、`cs5migrate` を実行してデータベースを 4.2 に更新する必要はありません。更新は自動的に行われます。

Berkeley DB バージョン 2.6 を使用する Calendar Server 5.x がインストールされている場合は、`cs5migrate` または `cs5migrate_recurring` ユーティリティを使用してカレンダーデータベースをバージョン 4.2 にアップグレードする必要があります。次の「[定期的な予定用の新しい移行ユーティリティ](#)」を参照してください。

Calendar Server 2.x が既にインストールされている場合は、現在のリリースに移行する前に、Calendar Server 5.x にアップグレードする必要があります。

移行については、次の場所にある『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド』を参照してください。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

## 定期的な予定用の新しい移行ユーティリティ

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook などの一部のアプリケーションでは、定期的な予定および作業を例外とともにマスターコンポーネントとして指定する必要があります。Calendar Server の以前のバージョンでは、定期的な予定にこの形式を提供していませんでした。そのため、`cs5migrate` ユーティリティの新しいバージョン、`cs5migrate_recurring` が取り入れられました。

標準の `cs5migrate` のすべての機能と同様に、新しいユーティリティはすでにデータベースにある定期的な予定と作業のマスターコンポーネントと例外レコードも生成します。将来的には、それらのレコードは Calendar Server によって自動的に生成されます。

データベースを移行する必要があるが Connector for Outlook を使用する予定でない場合は、代わりに `cs5migrate` を実行します。

いずれのユーティリティのダウンロード場所およびマニュアルについても、テクニカルサポートに問い合わせてください。定期的な予定を移行し、Connector for Microsoft Outlook を使用する予定であるかどうかを必ずはっきり伝えてください。

移行ユーティリティは、次の作業を実行します。

- Calendar Server 5.x データを Calendar Server 6 に移行する
- カレンダーデータベースを Berkeley DB バージョン 2.6 からバージョン 4.2 へ更新する
- 移行ステータスをログファイル (`csmigrate.log`) に書き込む

- エラーを `csmigrateerror.log`. という名前のログに書き込む
- すべての定期的な予定と作業のマスターレコードと例外を作成する

---

## 警告

使用しているサイトに Calendar Server の以前のバージョンがある場合で、その Calendar Server が限定仮想ドメインモードに設定されているか、または Calendar Server の複数のインスタンスが同一マシンにあるときは、移行要件に関してご購入先の顧客サービス担当者を確認し、それらの要件をサポートする特定の移行ユーティリティがお手元にあることを確認してください。

また、最初にフルバックアップを取らずにデータベースを移行することは絶対にしないでください。

---

## Web カレンダーアクセスプロトコル (WCAP) の変更

既存の WCAP コマンドに変更が加えられ、Communications Express および Connector for Microsoft Outlook をサポートするために新しく 4 つのコマンドが作成されました。

### 既存の WCAP コマンドの拡張機能

次のようなコマンドの変更が行われました。

- `doublebooking` パラメータ - `set_calprops` に追加されました。カレンダーの二重予約を許可するかどうかを決定します。
- `mailto:` のサポート - 次のコマンドのあとに RFC 822 準拠のアドレスを指定することにより、`calid` パラメータを `mailto:` として指定できます。
  - `deletecomponents_by_range`
  - `deleteevents_by_id`
  - `deleteevents_by_range`
  - `deletetodos_by_id`
  - `deletetodos_by_range`
  - `export`
  - `fetchcomponents_by_alarmrange`
  - `fetchcomponents_by_attendee_error`
  - `fetchcomponents_by_range`
  - `fetchevents_by_range`
  - `fetchtodos_by_range`

- `fetch_deletedcomponents`
- `get_calprops`
- `get_freebusy`

メールアドレスは、ユーザーのデフォルトのカレンダーの `calid` に解決されます。

- `emailorcalid` パラメータ - 電子メールアドレスまたは `calid` が、`ATTENDEE` および `ORGANIZER` プロパティの `cal-address` の部分に返されるかどうかを決定します。このパラメータは次のコマンドに追加されました。
  - `fetchcomponents_by_alarmrange`
  - `fetchcomponents_by_attendee_error`
  - `fetchcomponents_by_lastmod`
  - `fetchcomponents_by_range`
  - `fetchevents_by_id`
  - `fetchtodos_by_id`
- `get_calprops` コマンドによって、新しく 4 つの X-Token が出力されるようになりました。
  - `X-S1CS-CALPROPS-FB-INCLUDE`
  - `X-S1CS-CALPROPS-COMMON-NAME`
  - `X-S1CS-CALPROPS-INVITATION-COUNT`
  - `X-S1CS-CALPROPS-ALLOW-DOUBLEBOOKING`
- `fetchcomponents_by_range` に、新しく 3 つのパラメータが追加されました。
  - `attrset` - データの全部または一部が返されるようにする
  - `filter` - 返されるデータのフィルタを示す、名前と値のペア
  - `invitecount` - 設定すると、有効な出席依頼の数 (処理が必要な予定) が返される
- `fbinclude` パラメータ - `set_calprops` に追加された。このパラメータは、空き時間の計算にカレンダーを使用するかどうかを指定する
- `subscribe` パラメータ - `createcalendar` に追加された。このパラメータは、カレンダーをユーザーの登録リストに追加する
- `unsubscribe` パラメータ - `deletecalendar` に追加された。このパラメータは、カレンダーをユーザーの登録リストから削除する

## 4 つの新しい WCAP コマンド

Connector for Microsoft Outlook をサポートする次の WCAP コマンドが新しく追加されました。

- `list` - このユーザーが所有するカレンダーの一覧を表示する
- `list_subscribed` - ユーザーのカレンダー登録リストに含まれるカレンダーの一覧を表示する

- `subscribe_calendars` - 指定されたカレンダーを、ユーザーのカレンダー登録リストに追加する
- `unsubscribe_calendars` - 指定されたカレンダーを、ユーザーのカレンダー登録リストから削除する

## Communications Express - 新しいクライアントユーザー インタフェース

Calendar Server は現在、2つのクライアントユーザーインタフェース (UI) をサポートしています。

- Calendar Express (古い UI)

Calendar Express は、新しい Communications Express ユーザーインタフェースでは推奨されていません。将来的には、Calendar Express ユーザーインタフェースには新機能が追加されなくなります。アプリケーションの障害の原因となる問題のみが、修正されます。Sun Microsystems, Inc. は将来、Calendar Express の廃止を公表する予定です。

- Communications Express (このリリースの新機能)

次の2つの方法のいずれかを選択して、Communications Express をインストールします。

- 新規インストール - Sun Java Enterprise System 2 インストーラを使用して、Calendar Server と Communications Express の両方をインストールします。Communications Express は独立してインストールされるコンポーネントであるため、インストールパネルで必ず選択してください。
- Calendar Server 6 2004Q2 へのアップグレード後 - 『Sun Java Enterprise System インストールガイド』に記載されている更新手順に従って Calendar Server をアップグレードします。アップグレード後、Sun Java Enterprise System インストーラを使用して Communications Express コンポーネントをインストールします。

Communications Express に個別の設定プログラムが含まれており、これらはインストールの完了後に実行する必要があります。

この新しい UI に関する詳細については、「[Communications Express](#)」を参照してください。さらに、Communications Express は独自のオンラインヘルプと、管理ガイドおよび Customization guide も提供しており、次のアドレスで入手できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>



## Calendar Server 6 2004Q2 で修正済みの既知の問題

表 2 は、Calendar Server 6 2004Q2 リリースで修正された最も重要な問題 (バグ) の一覧です。

表 2 Calendar Server 6 2004Q2 の修正済みの問題

問題番号	説明
4690535	WCAP が無効な XML UTF-8 文字を削除しない
4895362	無効なユーザーを含むリマインダリストによって、リマインダの送信が停止される
4920536	csdomain は複数バイト文字をサポートしているが、csuser がそれらを表示できない
4923695	カレンダーが、設定ファイルの場所のカスタマイズを許可しなかった
4935282	マスターコンポーネントのフェッチにより、繰り返しではない予定が返される場合がある
4951065	cs5migrate が、既存の定期的な予定をマスターレコードと例外に変換しない
4948511	基本的な cs5migrate はまだ修正されていないが、修正済みの拡張バージョンがテクニカルサポートから入手可能である
4951991	予定が作成または修正されて、attendee パラメータに共通の名前が指定されている場合に電子メール通知が送信されない
4977423	各種のバックエンドで DWP に定期的に障害が発生する
4982336	終日の定期的な予定の 1 つのインスタンスに応答すると、エラーが発生する
4988306	Calendar Server 設定プログラムの実行後、Messaging Server を起動または停止できない
4991434	特定のベース DN 値の設定が失敗する
4992483	設定プログラムの実行後、リンク作成の問題が発生する
4992998	設定プログラムが、config ディレクトリを正しく扱えない
4909036	リマインダの電子メールで、ユーロ記号が正しく表示されない
5049203	Linux: SSL モードに設定されたときに、cshttpd が起動されない
5052128	Linux: DWP (CLD) を有効にすると、chhttpd がハングする
5054113	Linux: /opt をベースディレクトリとしてインストールすると、すべてのコンポーネント製品の所有権が変わる

---

## ハードウェアおよびソフトウェア要件と推奨事項

ここでは、Calendar Server のこのリリースに必要な、または推奨されるハードウェアとソフトウェアについて説明します。

- [ハードウェア要件と推奨事項](#)
- [ソフトウェア要件と推奨事項](#)

---

**注** フロントエンドマシンおよびバックエンドマシンに機能を分割する Calendar Server インストールの場合、それぞれのエンドのハードウェアプラットフォームとオペレーティングシステムが同じである必要があります。

つまり、ビッグエンディアンとリトルエンディアンでは互換性がないため、フロントエンドマシンとバックエンドマシンから構成される Calendar Server 配備内では x86 プラットフォームマシンと Sparc プラットフォームマシンの両方を使用することはできません。

また、フロントエンドマシンとバックエンドマシンでの Solaris x86 オペレーティングシステムと Linux オペレーティングシステムの混在はテストされていないので、現在サポートされていません。

---

## ハードウェア要件と推奨事項

- 標準インストールの場合、約 500M バイトのディスク容量。本稼働システムの場合、最低 1G バイト
- 128M バイトの RAM。本稼働システムの場合、最適なパフォーマンスを得るには 256M バイト ~ 1G バイトが必要
- 高速アクセス用の RAID ストレージ (大規模なデータベースでは使用が推奨される)

## ソフトウェア要件と推奨事項

- [サポートされるソフトウェアプラットフォーム](#)
- [クライアントコンピュータ用の推奨ブラウザ](#)

### サポートされるソフトウェアプラットフォーム

- Solaris™ 9 (5.9) オペレーティングシステム (SPARC® プラットフォーム版)
- Solaris™ 9 (5.9) オペレーティングシステム (x86 プラットフォーム版)
- Solaris™ 8 (5.8) オペレーティングシステム (SPARC™ プラットフォーム版)
- Red Hat Enterprise Linux AS 2.1 u2

## クライアントコンピュータ用の推奨ブラウザ

Sun Java System Calendar Express 6 2004Q2 には、JavaScript 対応のブラウザが必要です。最適なパフォーマンスを得るには、次のブラウザが推奨されます。

表 3 Calendar Server 6 用に推奨されるブラウザのバージョン

ブラウザ	Solaris システム	Windows	Macintosh
Netscape™ Communicator	7.0	7.0	-
Microsoft Internet Explorer	-	5.5 または 6.0	6.0
Mozilla	1.2 または 1.4	1.2 または 1.4	-

## インストール前の注意事項

ここには、Calendar Server 6 2004Q2 をインストールする前に理解しておく必要のある情報が記載されています。内容は次のとおりです。

- [12 ページの「フロントエンドおよびバックエンドマシンとオペレーティングシステム」](#)
- [12 ページの「OS パッチ」](#)
- [12 ページの「必要な権限」](#)
- [13 ページの「Java Enterprise System インストーラ」](#)
- [14 ページの「Calendar Server 設定プログラム」](#)
- [15 ページの「Calendar Server のデータとユーティリティの場所」](#)
- [16 ページの「Directory Server のパフォーマンス」](#)
- [18 ページの「スキーマ 1 を使用する Communications Express」](#)
- [18 ページの「プロビジョニングツール」](#)
- [19 ページの「Calendar Server 6 のマニュアル」](#)

### 警告

Calendar Server は NFS (Network File System) のマウント済みパーティションをサポートしていません。NFS のマウント済みパーティションには、実行可能ファイル、データベース、設定ファイル、データファイル、一時ファイル、ログファイルなど、Calendar Server のどの部分もインストールまたは作成しないでください。

## フロントエンドおよびバックエンドマシンとオペレーティングシステム

フロントエンドマシンおよびバックエンドマシンに機能を分割する Calendar Server インストールの場合、それぞれのエンドのハードウェアプラットフォームが同じである必要があります。

つまり、ビッグエンディアンとリトルエンディアンでは互換性がないため、フロントエンドマシンとバックエンドマシンから構成される Calendar Server 配備内では x86 プラットフォームマシンと Sparc プラットフォームマシンの両方を使用することはできません。

また、フロントエンドマシンとバックエンドマシンでの Solaris x86 オペレーティングシステムと Linux オペレーティングシステムの混在はテストされていないので、現在サポートされていません。

フロントエンドマシンおよびバックエンドマシンに Calendar Server をインストールする方法については、次の場所にある『Sun Java System Calendar Server 6 20004Q2 管理ガイド』を参照してください。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

## OS パッチ

OS の必須パッチを適用してから、Calendar Server 6 2004Q2 をインストールする必要があります。必須パッチの一覧については、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 リリースノート』を参照してください。

## 必要な権限

Solaris システム上で Sun Java™ Enterprise System インストーラまたは Calendar Server 6 2004Q2 設定プログラムを実行するには、スーパーユーザー (root) としてログインするか、スーパーユーザーになる必要があります。

# Java Enterprise System インストーラ

Sun Java™ Enterprise System インストーラを使用して、Calendar Server 6 2004Q2 をインストールします。Java Enterprise System インストーラは、Calendar Server 6 2004Q2 などの Sun コンポーネント製品パッケージ、および各種製品が使用する共有コンポーネントをインストールします。

この節の内容は次のとおりです。

- [デフォルトのインストールディレクトリ](#)
- [Linux RPM ファイル](#)
- [Calendar Server 6 以前のバージョンからのアップグレード](#)

## デフォルトのインストールディレクトリ

次に Solaris パッケージ (SUNWics5 および SUNWica5) のデフォルトのインストールディレクトリ (cal\_svr\_base) を示します。

```
/opt/SUNWics5
```

次に Linux パッケージ (コアおよび API) のデフォルトのインストールディレクトリ (cal\_svr\_base) を示します。

```
/opt/sun/calendar
```

## Linux RPM ファイル

表 4 は、さまざまな Calendar Server 関連のコンポーネント用の Linux RPM パッケージを示しています。

表 4 Calendar Server 関連コンポーネント用の Linux RPM パッケージ

コンポーネント	RPM ファイル
Calendar Server	sun_calendar-core-6.1-9.i396.rpm
	sun-calendar-api-6.1-9.i386.rpm
	ローカライズされたファイル
	sun-calendar-core-es-6.1-9.i386.rpm
	sun-calendar-core-ko-6.1-9.i386.rpm
	sun-calendar-core-fr-6.1-9.i386.rpm
	sun-calendar-core-zh_CN-6.1-9.i386.rpm
	sun-calendar-core-de-6.1-9.i386.rpm
sun-calendar-core-ja-6.1-9.i386.rpm	
sun-calendar-core-zh_TW-6.1-9.i386.rpm	
Communications Express	sun-uwc-6.1-5.i386.rpm
User Management Utility	sun-commcli-client-1.1-8.i386.rpm
	sun-commcli-server-1.1-8.i386.rpm

## Calendar Server 6 以前のバージョンからのアップグレード

Sun Java Enterprise System インストーラを使用して Calendar Server をアップグレードしないでください。patchadd プロセスを使用する必要があります。Calendar Server 2003Q4 (6.0) から現在のリリースへアップグレードする方法については、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 インストールガイド』を参照してください。

『Sun Java Enterprise System 2004Q2 リリースノート』も参照してください。

これらのマニュアルおよびその他の関連マニュアルは、次の場所にあります。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

## Calendar Server 設定プログラム

Calendar Server のインストール後、次のように設定する必要があります。

1. Directory Server セットアップスクリプト (comm\_dssetup.pl) を実行して、Sun Java System Directory Server for Calendar Server スキーマを設定します。
2. Calendar Server 設定プログラム (csconfigurator.sh) を実行して、使用しているサイトの特定の要件を設定します。

詳細は、『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド』を参照してください。

## Calendar Server のデータとユーティリティの場所

Java Enterprise System リリース 2 の場合、Calendar Server は表 5 に示されているリンクを提供します。

表 5 ディレクトリの場所

ファイル名	Solaris の場合の場所	Linux の場合の場所 *
管理者用ユーティリティ: start-cal、stop-cal、csattribute、 csbackup、cscal、 cscomponents、csdb、 csdomain、csexport、csimport、 csmonitor、csplugin、cspurge、 csrename、csresource、 csrestore、csschedule、csstats、 cstool、および csuser  移行ユーティリティ: csmig、 csvdmig、および ics2migrate  スクリプト: icsasm、 legbackup.sh、legrestore.sh、and private2public.pl	/opt/SUNWics5/cal/sbin	/opt/sun/calendar/sbin
管理者用ユーティリティ: csstart および csstop	/opt/SUNWics5/cal/lib	/opt/sun/calendar/lib
設定ファイル: ics.conf、 version.conf、counter.conf、お よび sslpassword.conf	インストール後: /opt/SUNWics5/cal/config-templ ate	/opt/sun/calendar/config-temp late
LDAP サーバー更新ファイル: 60iplanet-calendar.ldif、 ics50-schema.conf、および um50-common-schema.conf	設定中は、前述のディレクトリに 含まれるさまざまなファイルが、 選択した設定オプションで指定さ れた場所に移動されます。	
メール形式 (*.fmt) ファイル	/etc/opt/SUNWics5/cal/config/l anguage  language は、en、de、es、fr、ja、 ko、zh-TW、または zh-CN です。	/etc/opt/sun/calendar/config/l anguage

Linux インストーラは、"calendar" を /etc/opt/sun パス名に自動的に追加しません。設定時には、提供されるデフォルトのパスを受け入れないでください。パス名に "calendar" を追加します。

表 5 ディレクトリの場所 ( 続き )

ファイル名	Solaris の場合の場所	Linux の場合の場所 *
スキーマ IDIF ファイル: 20subscriber.ldif、 50ns-value.ldif、 50ns-delegated-admin.ldif、 55ims-ical.ldif、50ns-mail.ldif、 56ims-schema.ldif、 50ns-mlm.ldif、 60iplanet-calendar.ldif、 50ns-msg.ldif	/etc/opt/SUNWics5/config/sche ma  comm_dssetup.pl は、これらの ファイルを Directory Server に書き 込みます。	/etc/opt/sun/calendar/config/s chema
ライブラリ (.so) ファイル	/opt/SUNWics5/cal/lib	/opt/sun/calendar/lib
SSL ユーティリティ : certutil お よび modutil		
セッションデータベース	/opt/SUNWics5/cal/lib/http	/opt/sun/calendar/lib/http
カウンタ統計情報ファイル: counter および counter.dbstat	/opt/SUNWics5/cal/lib/counter	/opt/sun/calendar/lib/counter
timezones.ics ファイル	/opt/SUNWics5/cal/data	/opt/sun/calendar/data
Linux インストーラは、"calendar" を /etc/opt/sun パス名に自動的に追加しません。設定時には、提供されるデフォルト のパスを受け入れないでください。パス名に "calendar" を追加します。		

## Directory Server のパフォーマンス

LDAP Directory Server のパフォーマンスを向上させたい場合、特に LDAP ディレクトリのカレンダー検  
索を使用している場合は、次の点を考慮してください。

- [LDAP Directory Server 属性のインデックス作成](#)
- [サイズ制限およびルックスルー制限パラメータのチェックと設定](#)

### LDAP Directory Server 属性のインデックス作成

Calendar Server が LDAP Directory Server にアクセスするときのパフォーマンスを向上させるには、  
LDAP 設定ファイルの次の属性にインデックスを追加します。

- icsCalendar
- icsCalendarOwned
- mail
- mailAlternateAddress



設定プログラム `comm_dssetup.pl` は、オプションでインデックス作成を行います。

インデックス作成によってパフォーマンスがどれだけ変わったかを調べるには、次のテストを実行します。

1. `ics.conf` ファイル内の次のパラメータが「yes」に設定されていることを確認して、LDAP Directory Server のカレンダー検索を有効にします。

```
service.calendarsearch.ldap = "yes" (デフォルト)
```

2. 次の LDAP コマンドを実行します。

```
ldapsearch -b "base"
"(&(icscalendarowned=*user*)(objectclass=icsCalendarUser))"
```

`base` は、Calendar Server のユーザーとリソースのデータが格納されている Directory Server の LDAP ベース DN です。`user` は、エンドユーザーが「登録」>「カレンダーの検索」ダイアログで入力できる値です。

60,000 エントリを使ったテストでは、`icsCalendarOwned` のインデックスを作成しない場合、前述した検索に要した時間は 50 ~ 55 秒でした。インデックスを作成した後に検索に要した時間は、約 1 ~ 2 秒でした。

Directory Server のインデックスの追加については、次のサイトの「Sun Java System Directory Server 5 2004Q2」を参照してください。

[http://docs.sun.com/coll/DirectoryServer\\_04q2](http://docs.sun.com/coll/DirectoryServer_04q2)

## サイズ制限およびルックスルー制限パラメータのチェックと設定

ルックスルー制限 (`nsslapd-lookthroughlimit`) パラメータとサイズ制限 (`nsslapd-sizelimit`) パラメータが適切な値に設定されているかどうかを判別するには、次のコマンドを実行してみます。

```
ldapsearch -b "base"
"(&(icscalendarowned=*user*)(objectclass=icsCalendarUser))"
```

`base` は、Calendar Server のユーザーとリソースのデータが格納されている Directory Server の LDAP ベース DN です。`user` は、エンドユーザーが「登録」>「カレンダーの検索」ダイアログで入力できる値です。

LDAP サーバーがエラーを返す場合は、`nsslapd-sizelimit` または `nsslapd-lookthroughlimit` パラメータの大きさが十分でない可能性があります。次のガイドラインに従って、これらのパラメータを設定してください。

- `slapd.conf` ファイルまたは同等のファイルの `nsslapd-sizelimit` パラメータの値は、必要な結果をすべて返すのに十分な大きさにする必要があります。大きさが十分でない場合、切り捨てが実行され、結果が表示されないことがあります。

- `slapd.ldbm.conf` ファイルまたは同等のファイルの `nsslapd-lookthroughlimit` パラメータの値は、LDAP ディレクトリ内のすべてのユーザーとリソースの検索を完了するのに十分な大きさにする必要があります。可能な場合は、`nsslapd-lookthroughlimit` を `-1` に設定します。そうすると、検索に制限がなくなります。

## スキーマ 1 を使用する Communications Express

Communications Express のスキーマ 1 には 2 つの問題点があります。

- Communications Express 設定プログラムの実行前に Communications Express を Sun LDAP スキーマ 1 とともに実行する場合は、`ldapmodify` を使用して DC ルートノードを LDAP に追加する必要があります。エントリーは次のようになります。

```
dn:o=internet
objectClass:organization
o:internet
description:Root level node in the Domain Component (DC) tree
```

- スキーマ 1 のユーザーの作成に使用するカレンダーユーティリティの `csuser` は、Calendar Express 用に設計されており、Communications Express に必要なアドレス帳サービスのユーザーをサポートしていません。

## プロビジョニングツール

Calendar Server 用のユーザー、グループ、およびドメインのプロビジョニングツールには次の 2 つがあります。

- [18 ページの「User Management Utility」](#)
- [19 ページの「Calendar Server ユーティリティ」](#)

---

**注** ユーザーのプロビジョニングを Identity Server Console から行わないでください。Identity Server インタフェースは入力妥当性検査を行わないため、電子メールの受信ができない、または機能しないユーザーエントリーを作成する恐れがあります。エラーは報告されません。

---

### User Management Utility

Communications Services User Management Utility は、スキーマ 2 の Calendar Server および Messaging Server のプロビジョニングに推奨されるメカニズムです。このユーティリティはホストしているドメインを想定しますが、`-k legacy` オプションを指定してホストしていないドメインの環境に適したユーザーを作成できます。ホストしているドメインに設定する場合は、このユーティリティを使用する前に Calendar Server がホストしているドメインをサポートするように設定します (『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド』を参照)。

## Calendar Server ユーティリティ

スキーマ 1 モードの Calendar Server のプロビジョニングを行うには、製品に付属するカレンダーユーティリティ (『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド』に記載) を使用します。

## Calendar Server 6 のマニュアル

Calendar Server 6 には、次のマニュアルがあります。Part No. は括弧で囲まれています。

- Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 リリースノート (817-7082)
- Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド (817-7086)
- Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 Developer's Guide (817-5698)
- Sun Java System Communications Express 6 2004Q2 管理ガイド (817-7110)
- Sun Java System Communications Express 6 2004Q2 Customization Guide (817-6243)
- Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 User Management Utility Administration Guide (817-5703)
- Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 Schema Reference (817-5702)
- Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 Schema Migration Guide (817-5701)
- Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 Event Notification Service Guide (817-5700)

Calendar Express 6 2004Q2 のオンラインヘルプは、Calendar Express ソフトウェアに付属しています。Communications Express 6 2004Q2 のオンラインヘルプは、Communications Express ソフトウェアに付属しています。

Calendar Server 6 2004Q2 のマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

---

## 既知の問題と制限事項

ここでは、Calendar Server 6 のリリース時点で知られている重要な問題の一覧表を示します。

- [制限事項](#)
- [報告されている問題](#)
- [ベータ版で報告されて現在は修正済みの問題](#)

### 制限事項

現時点で知られている制限事項は以下のとおりです。

- [ポップアップブロッカー](#)
- [インデックス属性](#)
- [スキーマ 1 モードの Communications Express のユーザーの作成](#)
- [複数のドメイン \(ホストしているドメイン\)](#)

#### ポップアップブロッカー

**制限事項:** ポップアップブロッカーを有効にすると、一部の Calendar Server ウィンドウが表示されません。

**回避策:** カレンダー URL のポップアップブロッカーを無効にして、すべての Calendar Server ウィンドウが表示されるようにします。

**例外:** Norton Inet Security AD\_BLOCKER と Mozilla の組み込み POP\_BLOCKER はどちらも、Calendar Server ウィンドウには影響を及ぼしません。

#### インデックス属性

**制限事項:** comm\_dssetup.pl スクリプトは、特定の属性のインデックスを作成してデータ検索の効率を高める。次の属性はインデックスを作成する必要があるが、まだ実行されていない。o、sunPreferredDomain、associatedDomain、および sunOrganizationAlias

**回避策:** インデックス作成を自分で行います。インデックスを追加する手順については、Directory Server の管理ガイドを参照してください。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

#### スキーマ 1 モードの Communications Express のユーザーの作成

**制限事項:** csuser ユーティリティが、アドレス帳用に作成したユーザーを有効にしない

**回避策:** `ldapmodify` を使用するユーザーを有効にします。

## 複数のドメイン (ホストしているドメイン)

**制限事項:** 設定プログラム `csconfigurator.sh` が、単一のドメインのみを設定する

**回避策:** 複数ドメインのカレンダー環境 (仮想ドメインまたはホストしているドメインと呼ばれる) が必要な場合、自分でドメインを追加する必要があります。このためには、**User Management Utility** を使用するか、または、**Sun LDAP スキーマ 1** をまだ使用している場合には `csdomain` ユーティリティを使用します。『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 管理ガイド』の「ホストしているドメインの設定」および「ドメインの管理」を参照してください。

## 報告されている問題

表 6 は、この製品について報告されている問題の一覧です。問題番号は、詳細な情報および回避策へのリンクです。

表 6 2004Q2 の既知の問題

問題番号	簡単な説明
<a href="#">4709785</a>	匿名ログインの場合に、UI がデフォルトで英語になる
<a href="#">4902248</a>	断続的に発生する不正なエラーメッセージ: <code>Unable to delete Session database:it may not exist yet.</code>
<a href="#">4905737</a>	IE 6.0 上の UI の品質を向上させる必要がある (変則的なフォントサイズは読み取れない)
<a href="#">4909281</a>	バグ 4898611 に関連。csuser によって生成された calid の中の 2 バイト文字によって、Calendar Express にエラーが発生する
<a href="#">4927112</a>	ics.conf ファイル内のパラメータの前に空白文字があると、設定の初期化時に致命的なエラーが発生する
<a href="#">4927620</a>	csconfiguration.sh プログラムの実行前に SUNwics5 をアンインストールした場合に、不正なエラーメッセージが出る
<a href="#">4957503</a>	GNOME 2.0 デスクトップ上でウィンドウのサイズを変更した後、データがなくなったりボタンが適切に機能しなくなる
<a href="#">4962533</a>	「予定のタイトル」および「詳細」内の HTML フォーマット文字列のマルチバイト文字が文字化けする
<a href="#">4964855</a>	各種の csdomain エラー
<a href="#">4961879</a>	
<a href="#">4989522</a>	定期的な会議では、出席者が最初の日付を受諾してから次のインスタンスを開き、一連のすべての会議 (今回と今後の回) を拒否する場合、最初のインスタンスを含む一連の会議がすべて拒否されたとしてマーキングされる

表 6 2004Q2 の既知の問題 ( 続き )

問題番号	簡単な説明
4990522	Calendar Server を起動できない。エラーメッセージ: 「Fatal error: must run command as the calendar server user, root not allowed」 5012766 に関連
4994609	出席者のいる終日の定期的な予定で、返信がエラー 14 で失敗する
5000974	csconfigurator.sh の実行。csconfigurator.sh が実行されるたびに、caldb.cld.cache.homedir.path および local.ldap.cache.homedir.path の 2 つの ics.conf パラメータのパスに、/var/opt/SUNWics5/csdb が追加される
5012766	設定プログラムはデフォルトの icsuser および icsgroup を実行時ユーザー ID として表示するが、デフォルトをそのまま受け入れると、実際には「root」が使用され、設定を続行できる。しかし、カレンダーサービスが後から起動されない
5015847	サイレントモードの設定プログラムでも、ユーザー操作が必要である
5016107	終日予定のリマインダが、半日が過ぎるまで送信されない
5016169	自動作成中に不正なエラーメッセージ「attribute icsSubscribed is not allowed.」が生成される
5017044	インストール直後のスクリプトに、Java Enterprise System インストールプログラムによって不正な WCAP バージョン番号が書き込まれる
5018700	search_calprops が文字化けしたデータを返す場合がある
5019977	SSL が SSLv2 モードで動作しない
5021888	ユーザーのカレンダーのタブで JavaScript エラーが発生する ( フランス語版 )
5026832	ユーザー情報にアクセスするのにより簡単なソリューションが必要である。ldapproxy の設定によって問題が発生する
5028320	GUI 設定で、LDAP の中に calmaster が見つからない場合にエラーメッセージが表示される。2 番目に選択したものが文字化けする。これは、「作成しない」と表示されるべき
5032289	一連の定期的な予定を作成してから deletecomponents_by_range を使用して一部の予定を削除した場合、これらのインスタンスに exdates が生成されない。Outlook のみが繰り返しを使用するが、このコマンドは決して使用されない
5032782	空白のベース DN または Directory Manager DN が原因で、設定ウィザードがハングする
5034820	get_freebusy コマンドを noxtokens=1 で発行するとエラーになり、X-NSCP_WCAP_ERRNO も出力されない。ユーザーはエラーメッセージを取得できない
5036344	Outlook を使用して、あるユーザーに出席を依頼すると、「空き時間のみ」のカレンダーを含む、そのユーザーのすべてのカレンダーに対して出席依頼が行われる
5038748	簡体字中国語および繁体字中国語の作業リマインダの問題
5038751	簡体字中国語の予定リマインダ電子メールで、「Start time」 および 「Due time」 の翻訳が必要である
5039139	簡体字中国語および繁体字中国語の「定期的な予定の設定」ウィンドウでのウィンドウのレイアウトの問題

表 6 2004Q2 の既知の問題 ( 続き )

問題番号	簡単な説明
5039152	簡体字中国語および繁体字中国語の「Options」->「Setting」に、適切な翻訳が必要
5040268	出席者に対して、定期的な予定の1つのインスタンスへの出席を依頼した場合、そのコピーのみが出席者に渡される。マスターレコードがない
5040270	開催者が定期的な予定の1つのインスタンスからある出席者を削除した場合、出席者のカレンダーに exdate が生成されない。ただし、マスターコンポーネントはインスタンスを rdate として表示する ( インスタンスが以前に例外だった場合 )。このため、fetch コマンドで例外を取り出すことができず、失敗する
5040715	storeevents コマンドが、まだカレンダーにログインしていない ( デフォルトのカレンダーを持たない )、新規に作成されたユーザーの主な電子メールアドレスへの出席依頼に失敗する
5044506	cscal は、ASCII 文字以外を含む表示名でカレンダーを作成できない
5046581	デフォルトユーザーのカレンダーの表示名のレイアウトがアジア人の名前として適切ではない
5046589	韓国語ロケールの「Options」->「Import/Export」の期間の形式が不適切である
5046597	韓国語の終日予定の「Preview」の下に、不適切な日付形式が表示される
5046601	韓国語の「Task List」ダイアログの下の期限の形式が不適切である
5049404	Linux: GUI ベースの設定プログラムを、簡体字中国語、繁体字中国語、および韓国語の環境で実行すると、文字が四角形つまり意味のない文字になる
5050077	commadmin でカレンダーのユーザーを作成する際に -k フラグを必ず指定する必要がある
5050129	仮想 ( ホストしている ) ドメインのサポートをするための設定の質問が追加される。5050077 に関連
5053566	Linux: Calendar Server ファイルがデフォルトで /etc/opt/sun/ と /var/opt/sun 下にインストールされた
5054291	Linux: csdomain -a オプションによってセグメント例外が発生する
5054298	Linux: start.log での領域ロックエラー
5056197	年単位で繰り返される予定および作業に誤った日付が設定される (L10N)
5056220	変更時に、年単位で繰り返される作業にもう1年追加される
5059933	Fatal Error 70: Cannot start Alarm Dispatch thread. がフロントエンドおよびバックエンド構成の場合に発生する
5060062	2つのLDAPスキーマオブジェクトクラス用のOIDに関する説明書の説明が間違っている
5060114	

## 4709785

**問題:** 匿名ログインの場合に、UI がデフォルトの英語になる

**回避策:** 特にありません。

## 4902248

**問題:** cshttpd および csadmin の停止後、`csdb -q delete` を発行すると、断続的に不正なエラーメッセージがエラーログに表示され、スクリプトが完了せずに停止する場合があります。このエラーメッセージは通知のみを目的としているため、エラーログに表示されるべきではない

**回避策:** メッセージを無視するか、ログにエラーがないかチェックするようにスクリプトにフィルタを設定します。正しいメッセージは、「Unable to delete Session db; it may not exist?」です。

## 4905737

**問題:** IE 6.0 上の UI の品質を向上させる必要がある ( 変則的なフォントサイズは読み取れない )

**回避策:** 特にありません。

## 4909281

**問題:** csuser を使用すると、ユーザー ID に ISO88591 の ( 特殊または 2 バイト ) 文字を入力可能である

**原因:** csuser は、calid/uid に使用される文字の妥当性検査を行いません。

**回避策:** User Management Utility を使用して、新規ユーザーを作成します。csuser を使用する場合は、次の条件を満たす文字のみを使用してください。

- カレンダ ID では大文字と小文字が区別される。たとえば、JSMITH と jsmith は等価ではない ( 電子メールアドレスはカレンダ ID とは異なり、大文字と小文字を区別しない。たとえば、jsmith@sesta.com と JSMITH@SESTA.COM とは等価 )
- カレンダ ID にはスペースは使用できず、次の文字のみに制限されている
  - 英字 (a-z、A-Z) および数字 (0 ~ 9) (ASCII 以外の文字は使用できない)
  - 特殊文字: ピリオド (.), 下線 (\_), ハイフンまたはダッシュ (-), アットマーク (@)、アポストロフィ ('), パーセント記号 (%), スラッシュ (/), および感嘆符 (!)

---

**注**                    ホストしているドメインの場合、アットマーク (@) は前述の規則に当てはまりません。たとえば、ホストしているドメインでは、calid は jdoe@sesta.com のようになります。

---

## 4927112

**問題:** ics.conf パラメータの前に空白文字があると、設定の初期化時に致命的なエラーが発生する



**回避策** : ics.conf パラメータの前の空白文字を削除します。

## 4927620

**問題** : csconfiguration.sh プログラムの実行前に SUNWics5 をアンインストールした場合に、不正なエラーメッセージが出る

**回避策** : メッセージを無視します。アンインストールは実際には成功しています。ディレクトリがなくなっていることを確認します。

## 4957503

**問題** : GNOME 2.0 デスクトップ上でウィンドウのサイズを変更した後、データがなくなったりボタンが適切に機能しなくなる (4957503)

**回避策** : 特にありません。この問題には、Calendar Server では対処できません。これは GNOME の問題です。

## 4962533

**問題** : ics.config の設定が正しいにもかかわらず、Internet Explorer を使用する国際化バージョンの場合、「予定のタイトル」および「詳細」内の HTML 形式の文字列にあるマルチバイト文字が文字化けする

**回避策** : 特にありません。

## 4964855

## 4961879

**問題** : 各種の csdomain エラー

**回避策** : csdomain を使用せずに、User Management Utility (commadmin) または ldapmodify を使用します。

## 4989522

**問題** : 定期的な会議では、出席者が最初の日付を受諾してから次のインスタンスを開き、一連のすべての会議 (今回と今後の回) を拒否する場合、最初のインスタンスを含む一連の会議がすべて拒否されたとしてマーキングされる。この時点でデータをエクスポートすると、最初のインスタンスは例外として表示されるが、その返信ステータスは上書きされる

**回避策** : 特にありません。

## 4990522

**問題:** Calendar Server を起動できない。Fatal error: must run command as the calendar server user, root not allowed.

**原因:** インストールに対して設定プログラムがまだ実行されていません。元のインストールではなくパッチを適用したインストールに対して設定プログラムを実行した場合、パッチのバックアウトによってこの問題が発生することがあります。パッチをアンインストールすると、システムはパッチが適用される前の状態に復元されます。この場合は、設定前の状態に復元されます。

**回避策:** 設定プログラムをもう一度実行します。または、パッチを適用する前に、Calendar Server の新規インストールに対して設定プログラムを実行します。パッチがバックアウトされている場合、設定をやり直す必要はありません。

## 4994609

**問題:** 出席者のいる終日の定期的な予定で、返信がエラー 14 で失敗する。DATE を RECURRENCE-ID の値として受け入れず、RFC2445 に違反している。現在 WCAP は、RECURRENCE-ID として DATE-TIME の値のみを受け入れている

**回避策:** 特にありません。

## 5000974

**問題:** csconfigurator.sh が実行されるたびに、caldb.cld.cache.homedir.path と local.ldap.cache.homedir.path の 2 つの ics.conf パラメータの値に /var/opt/SUNWicse/csdb が追加される

**回避策:** 2 つの ics.conf パラメータを編集して、重複したパスの表記を削除します。

## 5012766

**問題:** 設定プログラム csconfigurator.sh が実行時ユーザー ID を要求し、icsuser および icsgroup をデフォルトの設定として提案する。デフォルトを受け入れる場合、プログラムは「ユーザー ID "root" は root (スーパーユーザー) 権限を保持している。これは推奨されていない。スーパーユーザーで Calendar Server をインストールおよび実行してよろしいですか?」という警告を発する。プログラムは肯定の応答を受信して、処理を続行する。設定後、カレンダーサービスを開始できない

**原因:** 設定プログラムによって不適切なデフォルトが使用されています。そのため無効な入力でプログラムを続行しないでください。

**回避策:** 実行時ユーザー ID として、icsuser および icsgroup を特にキー入力します。「次へ」をクリックしてデフォルトを受け入れないでください。

## 5015847

**問題:** サイレント設定で、ユーザー操作が必要である

回避策：特にありません。

### 5016107

問題：終日予定のリマインダが、半日が過ぎるまで送信されない

回避策：特にありません。

### 5016169

問題：自動作成中に不正なエラーメッセージ「attribute icsSubscribed is not allowed.」が生成される

回避策：特にありません。

### 5017044

問題：インストール直後のスクリプトに、Java Enterprise System インストールプログラムによって不正な WCAP バージョン番号が書き込まれる

回避策：特にありません。

### 5018700

問題：search\_calprops が文字化けしたデータを返す場合がある

回避策：特にありません。

### 5019977

問題：SSL が SSLv2 モードで動作しない。これが問題となるのは、Calendar Server とともに、Messaging Server、Web Server、Portal Server、Directory Server などの SSLv2 モードのみに設定されていて SSL 通信で同じ証明書を共有するコンポーネント製品が配備されている場合である

回避策：特にありません。

### 5021888

問題：ユーザーのカレンダのタブで JavaScript エラーが発生する（フランス語版）

回避策：特にありません。

### 5026832

問題：ユーザー情報にアクセスするのにより簡単な方法が必要である。ldapproxy の設定はエラーを発生させやすい

回避策：特にありません。

## 5028320

**問題:** GUI モードの設定で、calmaster がないために正しい文字列が表示されない。LDAP の中に calmaster が見つからない場合、2 つのオプションがあるエラーメッセージが表示される。2 番目のオプションが文字化けする

**回避策:** 特にありません。「作成しない」と表示されるべきです。

## 5032289

**問題:** 一連の定期的な予定を作成してから deletecomponents\_by\_range を使用して一部の予定を削除した場合、これらのインスタンスに EXDATEs が生成されない

**回避策:** 特にありません。

## 5032782

**問題:** ベース DN または Directory Manager DN を空白にしたままで「次へ」をクリックすると、設定ウィザードのハングの原因になる

**回避策:** 特にありません。

## 5034820

**問題:** get\_freebusy コマンドを noxtokens=1 で発行するとエラーになり、X-NSCP\_WCAP\_ERRNO も出力されない。ユーザーはエラーメッセージを取得できない

**回避策:** 特にありません。

## 5036344

**問題:** Outlook を使用してあるユーザーに出席を依頼すると、「空き時間のみ」のカレンダを含む、そのユーザーのすべてのカレンダに対して出席依頼が行われる

**回避策:** 特にありません。

## 5038748

**問題:** 簡体字中国語および繁体字中国語の作業リマインダの問題

**回避策:** 特にありません。

## 5038751

**問題:** 簡体字中国語の予定リマインダ電子メールで、「Start time」および「Due time」の翻訳が必要である

**回避策:** 特にありません。

### 5039139

**問題:** 簡体字中国語および繁体字中国語の「定期的な予定の設定」ウィンドウでのウィンドウのレイアウトの問題

**回避策:** 特にありません。

### 5039152

**問題:** 簡体字中国語および繁体字中国語の「Options」->「Setting」に、適切な翻訳が必要

**回避策:** 特にありません。

### 5040268

**問題:** 出席者に対して、定期的な予定の1つのインスタンスへの出席を依頼した場合、そのコピーのみが出席者に渡される。マスターレコードがない

**回避策:** 特にありません。

### 5040270

**問題:** 開催者が定期的な予定の1つのインスタンスからある出席者を削除した場合、出席者のカレンダーに EXDATE が生成されない。ただし、マスターコンポーネントはインスタンスを RDATE として表示する (インスタンスが以前に例外だった場合)。このため、fetch コマンドで例外を取り出すことができず、失敗する

**回避策:** 特にありません。

### 5040715

**問題:** storeevents コマンドが、まだカレンダーにログインしていない (デフォルトのカレンダーを持たない)、新規に作成されたユーザーの主な電子メールアドレスへの出席依頼に失敗する

**回避策:** 特にありません。

### 5044506

**問題:** cscal は、表示名に ASCII 文字以外が含まれるカレンダーを作成できない

**回避策:** 特にありません。

### 5046581

**問題:** デフォルトユーザーのカレンダーの表示名のレイアウトがアジア人の名前として適切ではない

**回避策:** 特にありません。

## 5046589

**問題:** 韓国語ロケールの「Options」->「Import/Export」の期間の形式が不適切である

**回避策:** 特にありません。

## 5046597

**問題:** 韓国語の終日予定の「Preview」の下に、不適切な日付形式が表示される

**回避策:** 特にありません。

## 5046601

**問題:** 韓国語の「Task List」ダイアログの下の期限の形式が不適切である

**回避策:** 特にありません。

## 5049404

**問題:** Linux: GUI ベースの設定プログラムで、簡体字中国語、繁体字中国語、および韓国語を表示すると、文字が四角形つまり意味のない文字になる

**回避策:** 特にありません。

## 5050077

**問題:** `comadmin` によってカレンダーのユーザーを作成する場合は `-k` フラグを必ず指定する必要がある。ホストしていない環境で `comadmin` を使用してユーザーのプロビジョニングをする場合は、`-k legacy` を指定して、カレンダー ID (`calid`) が、`jdoe@sesta.com` などのホストしているドメインに必要な複合 `calid` 形式ではなく `jdoe` などの単純な形式になるようにする必要がある。逆に、ホストしているドメイン環境で作業している (`ics.conf` がこの環境に設定されている) 場合は、`calid` が完全修飾されるように (`jdoe@sesta.com`) デフォルト値を受け入れるようにする (`-k hosted`)。5050129、5046517 に関連

**回避策:** ホストしているドメインを使用しているが、一部のユーザーの `calid` が単純な、完全修飾でない形式である場合は、Calendar Server ユーティリティ `csvdmig` を実行します。このユーティリティは、LDAP データベース内の既存のカレンダーに対して完全修飾された `calid` を作成し、カレンダーデータベース内の対応する予定および作業が新しい完全修飾された `calid` を参照するように更新します。

## 5050129

**問題:** ユーザーを、ホストしているドメイン (hosted モード) または単一のドメイン (legacy モード) のどちらに作成するのかを指定するために、**User Management Utility (comadmin)** に対してさらに設定の質問を追加する必要があります。この質問は、`cli-userprefs.properties` ファイルにパラメータを設定する。これにより、設定時にデフォルトモードが設定される。現在、デフォルトモードは `hosted` であり、ユーザーは単一ドメインモードで作成する各ユーザーに `-k legacy` を指定する必要があります。5050077、5046517 に関連

**回避策:** ホストしているドメインを使用しているが、一部のユーザーの `calid` が単純な、完全修飾でない形式である場合は、**Calendar Server** ユーティリティ `csvdmig` を実行します。このユーティリティは、LDAP データベース内の既存のカレンダーに対して完全修飾された `calid` を作成し、カレンダーデータベース内の対応する予定および作業が新しい完全修飾された `calid` を参照するように更新します。

## 5053566

**問題:** **Calendar Server** 設定プログラムが、`/etc/opt/sun/config` 下に `config` ファイル、`/var/opt/sun/logs` 下に `log` ファイルなど、誤ったディレクトリ (`/etc/opt/sun` および `/var/opt/sun`) 下に `config` および `log` ファイルを作成する

**回避策:** `csconfigurator.sh` を実行するときに、提示されたデフォルトに `/calendar` を追加します。たとえば、次のように入力します。`/etc/opt/sun/calendar/config`, `/var/opt/sun/calendar/logs`。

## 5054291

**問題:** `csdomain -a` によってセグメンテーション違反が発生する。`domainAccess` を指定して、ドメインの追加を試みている

**回避策:** 特にありません。

## 5054298

**問題:** `start.log` での領域ロックエラー。最初の `csstart` がロックを解放し、次の `csstart` が同じロックを解放しようと試みる。このエラーは、機能に大きな影響を及ぼさない

**回避策:** 特にありません。

## 5056197

**問題:** 年単位で繰り返される予定および作業に誤った日付が設定される。これは、「期限」が予定または作業の最初のインスタンスが発生する前に設定された場合に発生する

**回避策:** 期限を調整して、最初の予定または作業のインスタンスより後に移動します。

## 5056220

**問題:** 年単位で繰り返される作業を変更すると、年が1年進む

回避策：特にありません。

## 5059933

**問題**：Fatal Error 70: Cannot start Alarm Dispatch thread. がフロントエンドおよびバックエンド構成が指定された場合に発生する

**回避策**：フロントエンドおよびバックエンドサーバーを構成するときに、フロントエンドサーバーの ics.conf ファイルを次のように設定します。

```
service.ens.enable = "no"
caldb.serveralarms="0"
caldb.serveralarms.dispatch="no"
```

## 5060062

## 5060114

**問題**：2つのLDAPスキーマオブジェクトクラス用のOIDに関するマニュアルの説明が間違っている。『Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 Schema Reference』に記載されている、次のオブジェクトクラスのOIDが誤っている

- icsCalendarUser
- icsCalendarResource

正しいOIDは次のとおり

- icsCalendarUser - 1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.2.44
- icsCalendarResource - 1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.2.45

**回避策**：99user.ldif ファイルを編集して、誤ったOIDを新しいOIDで置き換えます。次に、Directory Server を再起動します。

# ベータ版で報告されて現在は修正済みの問題

表 7 このリリースで修正済みのベータ版で報告された問題

問題番号	簡単な説明
<a href="#">4920542</a>	csdomain add コマンドが icsCalendarDomain を追加しない。ホストしているドメインを使用している場合、スキーマ1の環境ではこのドメインが必要である
<a href="#">4922433</a>	
<a href="#">4963221</a>	csconfigurator.sh がデフォルトのドメインに icsCalendarDomain を追加しない
<a href="#">4982126</a>	パッチのバックアウト後、サービスを開始できない



---

問題番号	簡単な説明
4984818	Linux 設定プログラムが baseDN を取得できない
4985003	Linux の設定後に開始したプロセスが多すぎる
4998064	SSL を有効にして csadmin を設定すると、csadmin が起動しない
5004104	SSL を有効にして Calendar Server をインストールしたあと、csadmin が起動しない
5004157	複数のバージョンが混在するシナリオで、SSL が機能しない場合がある
5004163	
5010331	不正なパラメータが送信された場合に import.wcap が誤ったエラーコード (60) を返す
5010340	import.wcap が、エラー 29 を返すべき時にエラー 53 を返す
5011077	commadmin (User Management Utility) が config-wbsvr タスクに失敗した。Portal Server のインストール後、プロビジョニングツール commadmin の設定に失敗した
5011968	cshttpd の開始に失敗した
5012131	dssetup.zip ファイルが Calendar Server パッケージに含まれていない
5012170	comm_dssetup.pl に失敗した
5012478	カレンダーへのアクセス後、ユーザーパスワードを変更できない
5012596	ポップアップウィンドウが閉じられるはずなのに、まだ開いている
5014529	『Calendar Server 管理ガイド』に、cs5migrate -t オプションについての説明がない
5016212	csmig ユーティリティエラー。Delete log の問題
5017175	csdb を実行すると、削除されたマスターが失われる
5029465	csresource -o オプションが無効。「Error modifying calendar properties, error=-1」
5041023	認証で、ユーザー検索に設定可能なフィルタを使用しない。uid の代わりにメール属性で認証するように要求する
5050372	
5042276	信頼できるサークル SSO が Calendar Server と Messaging Server 間で機能していない
5049203	Linux: SSL に設定されたときに、cshttpd が起動されない
5052128	
5053759	cscal -o には大文字と小文字の区別があるが、カレンダーのログインでは大文字と小文字が区別されない

---

## 4920542

## 4922433

## 4963221

**問題:** fetchcomponents コマンドのエラーや、「csdomain: LDAP error 32: No such object.」のようなカレンダーユーティリティのエラーなど、各種エラー

**原因:** スキーマ 1 環境のドメインをホストしましたが、ドメインエントリに icsCalendarDomain オブジェクトクラスが存在しません。

次の 2 つの問題があります。

- csconfiguration.sh プログラムがデフォルトのドメインに icsCalendarDomain を追加しない
- カレンダーユーティリティ csdomain add が、icsCalendarDomain を追加しない

**修正:** csdomain は正常に動作します。設定プログラムがデフォルトのドメインに icsCalendarDomain を追加します。

## 4982126

**問題:** カレンダーデータベースを開けない。Calendar Server 6 2004Q2 のアンインストール後、サービスを開始できない

**原因:** Calendar Server 6 2004Q2 の場合、Berkeley DB バージョンがアップグレードされています。アンインストールでは、データベースは以前のバージョンに戻りません。

**回避策:** システムを Calendar Server バージョン 6.0 (2003Q4) に戻すには、Calendar Server 6 2004Q2 のインストール前に LDAP データベースをバックアップしておき、バックアップコピーから復元します。

## 4984818

**問題:** フィールド値に「get」関数を使用した場合、Linux 設定プログラムが baseDN を取得できない

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 で修正済み

## 4985003

ユーザー認識エラー。Linux の ps コマンドで、プロセスではなくスレッドが表示される

## 4998064

**問題:** SSL を有効にして csadmin を設定すると、csadmin が起動しない

**修正:** SSL を使用して設定すると、service.admin.port.enable の値が「no」になります。

## 5004104

**問題:** ics.conf ファイル内で `service.http.ssl.usessl="yes"` と設定されていると、DWP が開始しない

**原因:** 現在、SSL を DWP または CLD とともに使用する設定がサポートされていません。

**回避策:** ics.conf パラメータを、次のように「no」に設定します。

```
sservice.http.ssl.usessl="no"
```

## 5004157

## 5004163

**問題:** cert8db バージョンの競合により、バージョンの混在する配備シナリオで SSL が機能しない

**解決策:** cert8db を使用可能にするために、同じコンピュータにインストールされている次のすべての製品およびコンポーネントを同じリリースにアップグレードする必要があります。

- Calendar Server
- Messaging Server
- Administration Server
- 共有コンポーネント

## 5010331

**問題:** 不正なパラメータが送信された場合に `import.wcap` が誤ったエラー番号 (60) を返す

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み。新しいエラー番号が次のように作成されました。77 AC\_ERR\_BAD\_IMPORT\_ARGUMENTS

## 5010340

**問題:** `calid` が無効であるか、カレンダーが見つからない場合に、`import.wcap` が誤ったエラー番号 (53) を返す。エラー 29 を返す必要がある

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み。エラー番号 29 が返されます。

## 5011077

**問題:** `commadmin` の設定が `config-wbsvr` 作業で失敗した。Portal Server のインストール後、プロビジョニングツール `commadmin` の設定に失敗した

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

## 5011968

**問題:** cshttpd の開始に失敗した。ログファイルに次のエラーが表示される。「Fatal error:70: Cannot open cld cache data base」無効な引数が渡された

**原因:** Calendar Server 6.0 がインストール済みで、2004Q2 パッチが追加されている場合に発生します。このプロセスは、csdb, cld\_cache および ldap\_cache ディレクトリに \_\_db.00? および log.000\* ファイルを再び生成しようとしますが、6.0 のファイルがまだ残っているため、エラーメッセージが出ます。

**回避策:** cshttpd をアップグレード後最初に起動する前に、csdb, cld\_cache および ldap\_cache ディレクトリに残っている \_\_db.00? および log.000\* ファイルを削除します。

## 5012131

**問題:** comm\_dssetup.pl .zip ファイルが Calendar Server パッケージに含まれていない

**修正:** 現在、comm\_dssetup.pl.zip は Calendar Server パッケージに含まれている

## 5012170

**問題:** comm\_dssetup.pl に失敗した。*install-root/SUNWics5/cal/sbin/\*ldif.* にアクセスできない

**修正:** 現在、シンボリックリンクは正しく設定されています。

## 5012478

**問題:** カレンダーへのアクセス後、ユーザーパスワードを変更できない

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

## 5018238

**問題:** zh ロケールのオンラインヘルプで sunlogo.gif が壊れている

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

## 5012596

**問題:** Identity Server を使用せずに Calendar Server を設定する場合に、最上位のベース DN を入力すると、ポップアップウィンドウが開いて「設定プログラムは、LDAP サーバーが到達可能であること、および Directory Manager 資格が有効であることを確認しています」と表示される。次に、別のポップアップウィンドウが開いて「指定したベース DN はルートサフィックスと同じです。どうしますか?」と表示される

この時点で、最初のポップアップウィンドウが閉じられるはずなのに、まだ開いている。そのため、2 番目のポップアップで「新規に選択し直す」をクリックしてウィンドウを閉じると、最初のポップアップがまだ開いているため、次に行うべき処理が分かりにくい

**修正:** 現在、ウィンドウは閉じるようになっています。

## 5014529

**問題:** cs5migrate ユーティリティでは、-t オプションについて述べているが、説明はしていない

**修正:** -t オプションは実装されなかった。このオプションは前回、マニュアルから完全に削除されました。今回は、完全に削除されています。

## 5016212

**問題:** csmig が内部エラーメッセージを報告する

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

## 5017175

**問題:** csdb を再構築すると、削除されたマスターが失われる

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

## 5029465

**問題:** csresource -o が無効。「Error modifying properties, error=-1」

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

## 5041023

## 5050372

**問題:** 認証で、ユーザー検索に設定可能なフィルタを使用しない

**修正:** 別の LDAP 属性を使用する認証を有効にするには、次のようにします。

- ics.conf ファイルで local.user.authfilter パラメータに必要な属性と値のペアを設定します。  
たとえば、デフォルトのフィルタが "uid=%U" であるとし、次のようにして、デフォルトのフィルタを "mail=%U" に変更します。  

```
local.user.authfilter="mail=%U"
```
- Calendar Server を再起動します。

## 5042276

**問題:** 信頼できるサークル SSO が Calendar Server と Messaging Server 間で機能していない。逆方向、Messaging Server から Calendar Server へは機能する

**修正:** Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

5049203  
5052128

問題: SSL モード、DWP/CLd モードに設定されたときに、`cshttpd` が起動されない

修正: Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み

5053759

問題: `cscal -o` には大文字と小文字の区別があるが、カンレンダのログインでは大文字と小文字が区別されない `uid` を `jdoe` にしてカレンダーから `jdoe` を検索しても (`cscal -o JDoe list`)、カンレンダは見つからない

修正: Calendar Server 6 2004Q2 のリリースで修正済み。 `-o` オプションで大文字または小文字のいずれを使用しても、検索で `uid jdoe` のカレンダーを見つけることができるようになりました。したがって、コマンド `cscal -o JDoe list` で `jdoe` のカレンダーを見つけることができるようになりました。

---

## 再配布可能なファイル

Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 には、次のファイル群が含まれます。Sun は、お客様に対して、これらのファイルをバイナリ形式で複製および配布するための非独占的で譲渡不能な、制限された使用権を許諾します。

また、一覧のヘッダファイルおよびクラスライブラリは、複製および配布されたバイナリファイルと Sun のソフトウェア API とのインターフェイスを可能にすることのみを目的として、コピーおよび使用できますが、修正はできません。

コーディング例は、前述のバイナリファイルの作成に従って参照することのみを目的として提供されています。

Calendar Server 用の再配布可能なファイルはすべてプラグイン API 用で、CSAPI と呼ばれます。API については、次の場所にある『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 Developer's Guide』に説明があります。

[http://docs.sun.com/coll/CalendarServer\\_04q2](http://docs.sun.com/coll/CalendarServer_04q2)

以下のファイルでは、`cal_svr_base` は Calendar Server がインストールされたディレクトリです。Solaris のデフォルトは `/opt/SUNWics5/cal`、Linux のデフォルトは `/opt/sun/calendar` です。

再配布可能なファイルは、`cal_svr_base/csapi` の以下のサブディレクトリにあります。

- [authsdk](#)
- [bin](#)
- [classes](#)

- [include](#)
- [plugins](#)
- [samples](#)

## authsdk

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/authsdk/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
cgiauth.c  
expapi.h  
login.html  
nsapiauth.c
```

## bin

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/bin/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
libcsapi_xpcom10.so  
libicsexp10.so
```

## classes

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/classes/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
ens.jar  
jms.jar
```

## include

次にこのサブディレクトリ (cal\_svr\_base/csapi/include/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

IIDS.h	nsIEnumerator.h
csIAccessControl.h	nsIEventQueueService.h
csIAuthentication.h	nsIFactory.h
csICalendarDatabase.h	nsIPtr.h
csICalendarLookup.h	nsIServiceManager.h
csICalendarServer.h	nsIServiceProvider.h
csIDBTranslator.h	nsISizeOfHandler.h
csIDataTranslator.h	nsISupports.h
csIMalloc.hpluginscsIPlug in.h	nsISupportsArray.h
csIQualifiedCalidLookup.h	nsMacRepository.h
csIUserAttributes.h	nsProxyEvent.h
mozIClassRegistry.h	nsRepository.h
mozIRegistry.h	nsString.h
nsAgg.h	nsTraceRefcnt.h
nsCOMPtr.h	nsVector.h
nsCRT.h	nsUnicharUtilCIID.h
nsCom.h	nsXPComCIID.h
nsDebug.h	nsXPComFactory.h
nsError.h	nscore.h
nsHashtable.h	pasdisp.h
nsIAtom.h	publisher.h
nsICaseConversion.h	subscriber.h
nsICollection.h	xDll.h
nsID.h	xDllStore.h



## plugins

このディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/plugins/`) では、次のサブディレクトリに再配布可能なファイルがあります。

- [accesscontrol](#)
- [authentication](#)
- [datatranslator](#)
- [userattributes](#)

### accesscontrol

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/plugins/accesscontrol/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csAccessControl.cpp
csAccessControl.h
csAccessControlFactory.cpp
```

### authentication

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/plugins/authentication/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csAuthentication.cpp
csAuthentication.h
csAuthenticationFactory.cpp
```

### datatranslator

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/plugins/datatranslator/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csDataTranslator.cpp
csDataTranslator.h
csDataTranslatorFactory.cpp
```

## userattributes

次にこのサブディレクトリ (cal\_svr\_base/csapi/plugins/userattributes/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csUserAttributes.cpp
csUserAttributes.h
csUserAttributesFactory.cpp
```

## samples

このディレクトリ (cal\_svr\_base/csapi/samples/) では、以下のサブディレクトリに再配布可能なファイルがあります。

- [authentication](#)
- [datatranslator](#)
- [ens](#)
- [userattributes](#)

### authentication

次にこのサブディレクトリ (cal\_svr\_base/csapi/samples/authentication/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
authlogon.c
authlogon.h
authtest.c
csAuthenticationLocal.cpp
csAuthenticationLocal.h
csAuthenticationLocalFactory.cpp
```

### datatranslator

次にこのサブディレクトリ (cal\_svr\_base/csapi/samples/datatranslator/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csDataTranslatorCSV.cpp
```

```
csDataTranslatorCSV.h  
csDataTranslatorCSVFactory.cpp
```

## ens

次にこのサブディレクトリ (cal\_svr\_base/csapi/samples/ens/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
apub.c  
asub.c  
rpub.c  
rsub.c
```

## userattributes

次にこのサブディレクトリ (cal\_svr\_base/csapi/samples/userattributes/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csUserAttributesDB.cpp  
csUserAttributesDB.cpp  
csUserAttributesDBFactory.cpp
```

---

# Communications Express

Sun Java™ System Communications Express バージョン 6 2004Q2 は、カレンダー、アドレス帳、およびメールの 3 つのクライアントモジュールから構成される、統合された Web ベースのコミュニケーションおよびコラボレーションクライアントを提供します。カレンダーおよびアドレス帳クライアントモジュールは、あらゆる Web コンテナに単一のアプリケーションとして配備され、統合 Web クライアント (Unified Web Client、UWC) として全体的に参照されます。Messenger Express は、Messaging Server の HTTP サービスを使用する、スタンドアロンの Web インタフェースのメールアプリケーションです。

この節の内容は次のとおりです。

- [サポートされているブラウザ](#)
- [インストールに関する注意事項](#)
- [既知の問題と制限事項](#)

## サポートされているブラウザ

Communications Express は、次のブラウザで表示できます。

- Netscape™ Communicator 6.2.x, 7
- Internet Explorer 5.x, 6.0
- Mozilla™ 1.0 以上

## インストールに関する注意事項

以下は、Communications Express が依存するサービスです。

1. Directory Server: Sun Java™ System Directory Server バージョン 5.2 をインストール
2. Calendar Server: Sun Java™ System Calendar Server バージョン 6 2004Q2 (6.1) をインストール
3. Web コンテナ : Sun Java™ System Web Server バージョン 6.1 SP1 と JDK バージョン 1.4.2 をインストール
4. Messaging Server: Sun Java™ System Messaging Server 6 2004Q2 (6.1) をインストール

## 5. Identity Server: Sun Java™ System Identity Server 2004Q2 (6.2) をインストール

---

**注** Communications Express はここに記載されているサーバーのバージョンだけでテストされているため、これらのバージョンでのみサポートされています。

---

Sun Java System Communications Express のインストールおよび設定方法については、『Sun Java™ Systems Communications Express 管理ガイド』の第1章「Communications Express のインストールおよび設定」を参照してください。

Identity Server を配備する場合の Sun Java System Communications Express の設定方法については、『Sun Java™ Systems Communications Express 管理ガイド』の第4章「シングルサインオンの実装」、および第5章「Communications Express と Identity Server の配備」を参照してください。

## 既知の問題と制限事項

ここでは、Communications Express に関する既知の問題の一覧表を示します。次の内容について説明します。

- [一般的な問題](#)
- [設定ツールの問題](#)
- [カレンダーの問題](#)
- [メールの問題](#)
- [アドレス帳の問題](#)

### 一般的な問題

ここでは、一般的に知られている問題を示します。

**バグ番号 5008104: ユーザーが認証されている場合でも、URL に完全修飾ホスト名が必要である**  
ユーザーが認証されている場合でも、URL が完全修飾ホスト名でなければ Cookie にドメイン名が設定されません。

#### 回避策

常に完全修飾ホスト名を使用してアプリケーションにアクセスします。

**バグ番号 5025449: カレンダー表示の年月日の形式が適切でない**

アジアロケールの場合、日表示では月が正しい形式になっていますが、カレンダーの日および年フィールドがアジア形式で表示されません。

## 設定ツールの問題

ここでは、設定プログラムの既知の問題および回避策の一覧表を示します。

設定後の手順については、『Sun Java™ Systems Communications Express 6 2004Q2 管理ガイド』の第1章「Communications Express のインストールおよび設定」を参照してください。

### IS SDK 統合のための Web コンテナ設定の変更がサポートされていない

設定プログラムが、Identity Server SDK 統合のための Web コンテナ設定の変更をサポートしません。

#### 回避策

Identity Server とともに提供されているツールを手動で起動して、Identity Server の Web コンテナ設定を変更します。

### Java Enterprise System Unconfigure がサポートされていない

UWC クライアントでは、UWC アプリケーションの配備取消し、設定時に作成されたファイルの削除、および、実行中に作成されたファイルの削除はできません。

#### 回避策

Communications Express の設定を取り消すには、次の手順を実行します。

1. Communications Express パッケージを削除します。  
たとえば、Solaris では次のように入力します。pkgrm SUNWuwc
2. ステージングディレクトリおよび配備ディレクトリを削除します。
3. Web Server または Application Server の server.xml ファイルから、WEBAPP エントリを削除します。

### バグ番号 4988408: 設定ツールでコンポーネントが 1 つも選択されない場合、誤ったエラーメッセージが表示される

コンポーネントが 1 つも選択されない場合、設定ツールは誤ったエラーメッセージを表示します。

エラーメッセージには、「設定するコンポーネントが選択されていません。」

「了解」をクリックし、「ディレクトリの選択」パネルに移動して別のディレクトリを指定するか、または設定を終了してください。」と表示されます。

### バグ番号 4982590: Communications Express のコンポーネントが、0 バイトと表示される

Communications Express のメールおよびカレンダーコンポーネントを表示する間、設定プログラムはコンポーネントサイズを 0 バイトと表示します。

### バグ番号 4996723: GUI 設定の入力フィールドの位置を、右揃えにするべきではない

設定ウィザードを英語以外の言語で起動した場合、フィールド名およびブラウザボタンが切り捨てられるかまたは表示されません。

### 回避策

設定パネルのサイズを変更して、コンテンツが正しく表示されるようにします。

**バグ番号 5028906: UWC 設定プログラム : ホストエイリアスが解決されない場合、devinstall がコアをダンプする**

システムにホスト名エイリアスが設定されていないと、UWC 設定プログラムは設定プロセスを完了できません。

### 回避策

システムに、1 つまたは複数のホスト名エイリアスが設定されていることを確認します。

UNIX システム上に 1 つまたは複数のホスト名エイリアスを設定するには、次の手順を実行します。

1. /etc/nsswitch.conf ファイルの `hosts` を次のように設定します。

```
hosts:files dns nis
```

この設定はネームサービスに対して、ホスト名とホストエイリアスの解決に使用する検索順序を示します。ネームサービスの検索順序は、`files`、`dns`、および `nis` です。

2. /etc/hosts ファイルで、使用コンピュータの IP アドレスに対して 2 つ以上のホスト名が定義されていることを確認します。

たとえば、システムの IP アドレスが `129.158.230.64` の場合、/etc/hosts ファイルに IP アドレスを次のように設定できます。

```
129.158.230.64    bugie.siroe.varrius.com  budgie
```

または

```
129.158.230.64    bugie.siroe.varrius.com  budgie  loghost
```

IP アドレス の誤った設定例:

```
129.158.230.64    budgie
```

**バグ番号 5024149: JES2 から Communication Express をインストール中に、不正なエラーメッセージが出る**  
Java Enterprise System 2003Q4 1 インストーラから次のコンポーネントをインストールしたあと、JES 2 インストーラから Communication Express を選択すると Webserver 6.1 SP1 がグレー表示されます。

- Messaging Server
- Calendar Server
- Directory Server
- Administration Server
- Web Server 6.1

Web Server 6.1 SP1 が選択できない場合、コンポーネント選択パネルで「次」をクリックすると、次のような不正なエラーメッセージが表示されます。

```
[Sun ONE Web Server 6.1 Service Pack2, Sun ONE Application Server 7.0 Update 3]
```

```
You must select one of these in the Component Selection panel. Either one of these is required by [Sun Java System Communications Express]
```

このエラーメッセージは、Web Server の古いバージョンが検出され、Web Server の以前のバージョンをアンインストールし、Web Server の最新バージョンを JES2 インストーラからインストールする必要があることを意味する必要があります。

#### バグ番号 5043406: Communications Express バンドルから am\*.jar が削除される

Communication Express ログインページにアクセスすると、「サーバーエラー」ページが表示されます。

#### 回避策

Communication Express が Identity Server を使用するよう設定されている場合、次の手順を実行します。

1. `UWC-deployed-path/WEB-INF/lib` ディレクトリから `am_sdk.jar`, `am_services.jar`, `am_logging.jar` を削除します。

たとえば、`/var/opt/SUNWuwc/WEB-INF/lib` などからです。

2. Web コンテナを再起動します。

#### バグ番号 5043951: Communications Express のインストール時に、クラスローダに複数の jss3.jar があるというエラーが発生する

Communications Express または Identity Server コンソールにアクセスすると、「サーバーエラー」ページが表示されます。この問題は、Communications Express と Identity Server が同じ Web コンテナインスタンスに配備された場合に発生します。

#### 回避策

1. `UWC-deployed-path/WEB-INF/lib` ディレクトリから `jss3.jar` を削除します。

たとえば、`/var/opt/SUNWuwc/WEB-INF/lib` などからです。

2. Web コンテナを再起動します。

## カレンダーの問題

### デフォルトの予定状況フィルタに関する問題

「カレンダーオプション」ウィンドウの「デフォルトの予定状況フィルタ」は、日、週、および月のカレンダー表示で表示される予定を指定します。使用できるオプションは、受諾済み、暫定、辞退済み、および返信なしです。



予定ステータスとして「受諾済み」オプションのみを選択した場合、受諾した出席依頼のみが日、週、および月のカレンダー表示に表示されます。ただし、日、週、または月のカレンダー表示には、作成したすべての予定が常に表示されています。

「カレンダーオプション」ウィンドウでは、デフォルトで「受諾済み」と「暫定」のみが選択されています。これは、ユーザーが拒否した予定または応答していない予定が表示されないことを表します。

日、週、月、および年表示のすべての予定を表示するには、「カレンダーオプション」ウィンドウで、受諾済み、暫定、辞退済み、返信なしのすべてのオプションを選択する必要があります。

**Sun Java System Calendar Express と Sun Java System Communication Express によって使用される、「週の最初の曜日」という語義が一致しない**

Communications Express の Calendar Express を使用して作成されたカレンダーを表示する場合、「カレンダーオプション」ウィンドウでは翌日が「週の最初の曜日」になります。

たとえば、Calendar Express で「日曜日」を週の最初の曜日とした場合、Communications Express では「月曜日」と表示されます。すなわち、Communications Express は「月曜日」を週の最初の日だとみなします。

Communications Express と Calendar Express を排他的に使用する（一方を使用したらもう一方を決して使用しない）場合、2 つは正常に動作します。しかし、ユーザーが Calendar Express から Communications Express に、またはその反対へと移行する場合、「週の最初の曜日」オプションに変動が見られます。これは、この特定のオプションに関して 2 つの製品で使用される語義が一致していないからです。

**バグ番号 4902650: Solaris 9 上で動作する Netscape 7.0 で、カレンダーのグリッド線が表示されない**  
Solaris 9 上で動作する Netscape 7.0 から Communications Express を起動した場合、アプリケーションでカレンダーのグリッド線が表示されません。

**バグ番号 4956450: カレンダーを検索すると、すべてのユーザーのカレンダーが返される**  
カレンダー UI から特定のカレンダー ID を持つカレンダーを検索すると、検索結果に条件と一致しないカレンダーが含まれます。

#### 回避策

カレンダーサーバー設定ファイル `ics.conf` で `service.calendarsearch.ldap = "no"` と設定し、Calendar Server を再起動します。

**バグ番号 5030757: 一部のロケール名について、ロケール代替機構が動作しない**

#### 回避策

下線を含むロケール名がサポートされている場合は、「\_」の代わりに「-」を含むリソースバンドルディレクトリを作成します。

たとえば、ロケール `en_US` をサポートする必要がある場合、`<UWC-data-dir>/domain/<domain-name>` にディレクトリ `en-US` を作成します。

**バグ番号 5019828: カレンダー UI が、カレンダー記述の html のレンダリングを行わない**  
カレンダー記述タグのすべての HTML コンテンツは、UI 内の不要なものとしてレンダリングされます。

## メールの問題

Sun Java System Messaging Server を Java Enterprise System 2003Q4 からインストールする場合、次の 2 つのパッチを適用します。

- 116568-51
- 116570-09

**バグ番号 5032016: UWC 内にメールタブまたはメールが表示されない**  
ldap 内のユーザーエントリで、inetUserStatus および mailUserStatus が「Active」に設定されている場合、「メール」タブが表示されません。

### 回避策

inetUserStatus および mailUserStatus を「Active」に変更します。

**バグ番号 5006218: Netscape 7: メール URL に Sun のロゴが表示されない**  
Netscape 7 では、ブラウザ内の URL には、アドレス帳またはカレンダーにアクセスした場合にはマストヘッドに Sun のロゴが、メールにアクセスした場合には Java アイコンが表示されます。

### 回避策

favicon.ico ファイルを \$UWCDEPLOYDIR/favicon.ico から、UWC が配備されている Web Server の docroot ディレクトリへとコピーします。

docroot の値は server.xml にあります。server.xml にある docroot エントリの例として次のものがあります。

```
<PROPERTY name="docroot" value="/opt/SUNWwbsvr/docs"/>
```

**バグ番号 5032833: メールフィルタ: メールフィルタを特定の条件で作成すると、アプリケーションエラーがスローされる**

メールフィルタを特定の条件で作成すると、次のようなエラーページがスローされます。

### Application Error

com.ipplanet.jato.NavigationException:Exception encountered during forward

Root cause = [java.lang.StackOverflowError]

### 回避策

サイズの大きなフィルタの作成および操作を可能にするために、Java スレッドのスタックサイズを適切に設定します。

**バグ番号 5032888: メールフィルタ : 設定が正しく保存されていない**

メールフィルタの詳細を編集モードで表示している場合、「メッセージを保存するフォルダ:」および「転送するメールアドレス:」の設定は正しく保存されません。

**バグ番号 5047833: Mozilla 1.4 を使用して電子メールにアドレスを追加するとき、inputObj is null エラーを取得する**

ユーザーがアドレス帳のアドレスを電子メールの「To」または「Cc」フィールドに追加するとき、「inputObj is null」という JavaScript エラーメッセージが表示されます。

このバグは、Mozilla 1.4、Netscape 7.1 でのみ報告されています。

## アドレス帳の問題

**バグ番号 4995472: アドレス帳名を、defaultps/dictionary-<lang>.xml によってセッションごとにローカライズできない**

このバグは、アドレス帳に最初にアクセスする時に、解決されたセッション言語とドメイン固有の defaultps/dictionary-<lang>.xml に基づいてローカライズされた値が割り当てられるために起こります。

また、「アドレス帳オプション」ページに入力した「名前」および「説明」は、「アドレス帳」タブページに表示される「現在のアドレス帳」ドロップダウンリストには表示されません。

バグ番号 5025048: いくつかの GUI がローカライズされておらず、英語のまま表示される

バグ番号 5052474: vlv\_paging=true の場合でも、アドレス帳は LDAP VLV コントロールを使用しない

db\_config.properties で vlv\_paging=true と設定しても、アドレス帳は LDAP 検索時に Virtual List View コントロールを使用しません。これは、VLV インデックスが設定されている Directory 配備のパフォーマンスに影響する場合があります。

# User Management Utility

ここでは、Communications Services の User Management Utility の既知の問題について説明します。

comadmin ユーティリティを LDAP ディレクトリに対してスキーマ 2 互換モードで実行できるようにするには、手動による手順が必要である (5042801)

comadmin を、LDAP ディレクトリ上でスキーマ 2 互換モードで動作させるには、以下に示す手順を手動で実行する必要があります。

## 回避策

次の 6 つの手順を実行します。

1. 次の ACI を OSI ルートに追加します (*ugldapbasedn* を使用するユーザーグループのサフィックスに必ず置き換える)。

```
#
# acis to limit Org Admin Role
#
#####
# dn:<local.ugldapbasedn>
#####
dn:<ugldapbasedn>
changetype: modify
add:aci
aci:(target="ldap:///($dn),<ugldapbasedn>") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "Organization Admin Role access deny to org node"; deny
(write,add,delete) roledn = "ldap:///cn=Organization Admin Role,($dn),<ugldapbasedn>");)

dn:<ugldapbasedn>
changetype: modify
add:aci
aci:(target="ldap:///($dn),<ugldapbasedn>") (targetattr="*") (version 3.0; acl
"Organization Admin Role access allow read to org node"; allow (read,search) roledn =
"ldap:///cn=Organization Admin Role,($dn),<ugldapbasedn>");)
```

2. 次の ACI を DC ツリーのルートサフィックスに追加します (*dctreebasedn* を DC ツリーのルートサフィックスに、*ugldapbasedn* をユーザーグループのサフィックスに必ず置き換える)。

```
#
# acis to limit Org Admin Role
#
#####
# dn:<dctreebasedn>
#####
dn:<dctreebasedn>
changetype: modify
add:aci
```

```

aci: (target="ldap:///($dn), <dctreebasedn>") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "Organization Admin Role access deny to dc node";
deny (write,add,delete) roledn = "ldap:///cn=Organization Admin
Role, ($dn), <ugldapbasedn>");

dn:<dctreebasedn>
changetype: modify
add: aci
aci: (target="ldap:///($dn), <dctreebasedn>") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "Organization Admin Role access allow read to dc node"; allow
(read,search) roledn = "ldap:///cn=Organization Admin Role, ($dn), <ugldapbasedn>");

dn:<dctreebasedn>
changetype: modify
add: aci
aci: (target="ldap:///<dctreebasedn>") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "S1IS Proxy user rights"; allow (proxy)
userdn = "ldap:///cn=puser,ou=DSAME Users, <ugldapbasedn>");

dn:<dctreebasedn>
changetype: modify
add: aci
aci: (target="ldap:///<dctreebasedn>") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "S1IS special dsame user rights for all under the root suffix"; allow
(all) userdn = "ldap:///cn=dsameuser,ou=DSAME Users, <ugldapbasedn>");

dn:<dctreebasedn>
changetype: modify
add: aci
aci: (target="ldap:///<dctreebasedn>") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "S1IS Top-level admin rights";
allow (all) roledn = "ldap:///cn=Top-level Admin Role, <ugldapbasedn>");

```

3. AMConfig.properties ファイルの com.iplanet.am.domaincomponent プロパティを、DC ツリーのルートサフィックスに設定します。たとえば、<IS\_base\_directory>/lib/AMConfig.properties ファイルの次の行を変更します。

変更前

```
com.iplanet.am.domaincomponent=o=isp
```

変更後

```
com.iplanet.am.domaincomponent=o=internet
```

4. Identity Server で、互換性モードを使用可能にします。Identity Server コンソールの「管理」サービスページで、「ドメインコンポーネントツリーを有効」チェックボックスにチェック (有効) します。

5. 次の例のように、inetdomain オブジェクトクラスをすべての DC Tree ノード (dc=com, o=internet など) に追加します。

```
/var/mps/serverroot/shared/bin 298% ./ldapmodify -D "cn=Directory Manager" -  
w password  
dn:dc=com,o=internet  
changetype: modify  
add: objectclass  
objectclass:inetdomain
```

6. Web コンテナを再起動します。

User Management Utility (commadmin) をバージョン 6 2003Q4 からバージョン 6 2004Q2 にアップグレードする場合、ドメイン管理者がドメインに対するサービスの追加および削除、ドメイン属性の変更ができる (5026945)

ドメイン管理者は、ドメイン属性を変更する権限を持つべきではありません。

このような状況は、User Management Utility (commadmin) をバージョン 6 2003Q4 からバージョン 6 2004Q2 にアップグレードする場合に発生します。commadmin のアップグレードバージョン (Identity Server 6 2004Q2 とバンドルされたもの) を新規にインストールする場合は、config-iscli プログラムを使用して commadmin を設定するときに、適切な usergroup.ldif ファイルが自動的に追加されます。

#### 回避策

ACI を取得して、ドメイン管理者の権限を正しく制限するには、次の手順を実行します。

1. msg\_svr\_base/lib/config-templates ディレクトリにある usergroup.ldif を開き、テンプレート ldif の `ugldapbasedn` を、使用するユーザーグループのサフィックスに置き換えます。
2. 編集した usergroup.ldif を LDAP ディレクトリに追加します。

commadmin 設定プロセスがデフォルトの Web コンテナ (Application Server) を検出しない (5015063)

commadmin の設定時に、設定ユーティリティはデフォルトの Web コンテナを検出しません (Identity Server のデフォルトの Web コンテナは Application Server)。その代わりに、設定ユーティリティは Web Server インスタンスディレクトリを要求します。設定の終了時に、設定ユーティリティはユーザーに対して、war ファイルを Identity Server が使用する Web コンテナに手動で配備して、クラスパスを変更するように要求します。

#### 回避策

commadmin を正しく設定するには、Application Server を Web コンテナとして使用して、次の手順を実行します。

1. commadmin の設定時に、Web Server インスタンスディレクトリを要求されたら、Web Server インスタンスディレクトリの代わりに Application Server インスタンスディレクトリを入力します。デフォルトでは、Application Server インスタンスディレクトリは次のディレクトリになっています。

```
/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1
```

2. commadmin の設定を完了したあと、Application Server 設定ディレクトリの server.xml ファイルを見つけてます。デフォルトでは、server.xml ファイルは次のディレクトリにあります。

```
/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/config
```

server-classpath を検索し、server-classpath に次のパスを追加します。

```
app-server-root/domains/domain1/server1/applications/j2ee-modules/commcli_1/WEB-INF/classes
```

3. war ファイルを次のように配備します。

```
cd /opt/SUNWappserver7/bin
./asadmin deploy --user "admin user name" --password "admin user password"
--host hostname --port 4848 --name commcli --contextroot
commcli /opt/SUNWcomm/lib/jars/commcli-server.war
```

4. Application Server を次のように再起動します。

```
cd /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/bin
./stopserv ; ./startserv
```

**config-wbsvr 作業の実行中に commadmin の設定に失敗する (5011077)**

まれに、commadmin の設定中 (Messaging Server のインストールおよび設定後) に config-wbsvr 作業が失敗することがあります。

#### 回避策

commadmin の設定前に Portal Server をインストールしないでください。commadmin の設定が完了してから Portal Server をインストールしてください。

**ASCII 以外のグループを変更できない (4934768)**

ASCII 以外の文字を含むグループ名でグループを作成した場合、commadmin group modify コマンドではそのグループを変更できません。

たとえば、commadmin group create コマンドで -G オプションを指定して ASCII 以外の文字 xyz を含むグループを指定した場合、グループの LDAP エントリに xyz の電子メールアドレスが自動的に追加されます。ASCII 以外の文字は電子メールアドレスに使用できないため、commadmin group modify によるグループの変更は失敗します。

#### 回避策:

グループの作成時に -E *email* オプションを使用します。このオプションは、グループの電子メールアドレスを指定します。たとえば、次のように入力します。commadmin group create -D admin -w password -d siroe.com -G XYZ -S mail ¥ -E testgroup@siroe.com.

**複数の -f オプションを指定してグループを作成した場合に、1 つの属性のみが追加される (4931958)**

commadmin group create コマンドで、動的なグループの作成に複数の -f オプションを指定した場合、最後の -f オプションで指定した値のみが LDAP エントリに追加されます。その他の値は追加されません。

#### 回避策:

commadmin group create コマンドを使用する際は、-f オプションを複数回指定しないでください。

-M オプションを `group modify` コマンドに渡しても、外部のメンバーをグループに追加またはグループから削除できない (4930618 の影響)

`commadmin group modify` コマンドを -M オプションとともに使用して、外部のグループメンバーをグループに追加したりグループから削除したりすることはできません。

回避策:

-A オプションを使用して、属性名 `mgrpRFC822MailMember` とその値を `group modify` コマンドに渡します。次に例を示します。

```
./commadmin group modify -D admin -w password -G Group1 -A
+mgrpRFC822MailMember:usr100@iplanet.com

./commadmin group modify -D admin -w password -G Group1 -A
¥¥-mgrpRFC822MailMember:usr100@sun.com
```

---

## Connector for Microsoft Outlook

ここでは、製品マニュアルに含まれず、Connector for Microsoft Outlook のリリースノートにも記載されていない最新情報を提供します。

「Shared Calendar LDAP Lookup Configuration」というヘッダーの下の、プロキシ認証のための `calmaster` ACI 設定方法の例は古いものです。

次の例は、ルートサフィックス (ノード) の正しい ACI を示しています。

```
dn:o=usergroup
changetype: modify
add:aci
aci:(targetattr="icscalendar || cn || givenName || sn || uid ||
mail") (targetfilter=(objectClass=icscalendaruser)) (version 3.0; acl
"Allow calendar administrators to proxy -
product=ics,class=admin,num=2,version=1"; allow (proxy) groupdn =
"ldap:///cn=Calendar Administrators,ou=Groups,o=usergroup");)
```

ドメイン `basedn` ノードの場合、次の例が正しい ACI を示しています。

```
dn:o=sesta.com,o=usergroup
changetype: modify
add:aci
aci:(targetattr="icscalendar || cn || givenName || sn || uid ||
mail") (targetfilter=(objectClass=icscalendaruser)) (version 3.0; acl "Allow
calendar users to read and search other users -
product=ics,class=admin,num=3,version=1"; allow (search,read) userdn =
"ldap:///uid=*, ou=People, o=sesta.com, o=usergroup");)
```

ドメインがない場合は、`dn: 行の o=sesta.com` を削除して、ルートサフィックス自体にこの ACI を追加します。



Calendar Server 設定プログラム `csconfigurator.sh` がこれらの ACI を追加します。Java Enterprise System Release 1 からアップグレードする場合は、設定プログラムを再び実行してこれらの更新された ACI を取得する必要があります。

---

## 問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Calendar Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でご購入先のカスタマサポートに連絡してください。

- 次のアドレスにある、ご購入先のソフトウェアサポートサービス  
<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=help/collections>  
このサイトには、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクと、メンテナンスプログラムおよびサポート連絡番号へのリンクが掲載されています。
- メンテナンス契約に関連付けられている電話番号

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際は次の情報を提供してください。

- 問題の説明。問題が発生した状況や、その問題が操作に及ぼす影響など
- マシンのタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、および製品のバージョン。問題に影響を及ぼしている可能性のあるパッチその他のソフトウェアなど
- 問題を再現するための詳細な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

問題の報告を支援するため、Sun では `capture_environment.pl` ツールを提供しています。これは、`ics.conf` ファイル、ログファイル、カレンダーデータベースファイル、プラットフォーム情報、コアファイル (使用可能な場合) など、現在の Calendar Server 環境を取り込むための Perl スクリプトです。これらのファイルは、Calendar Server の開発で問題のデバッグを行うのに役立ちます。

`capture_environment.pl` ツールを実行するには、次の手順に従います。

1. 必要に応じて、カスタマサポートから `capture_environment.pl` ツールをダウンロードします。
2. 必要に応じて、Perl をインストールしてパスに追加します (Perl をインストールできない場合は、使用する Calendar Server 環境のスナップショットを手動で作成する方法が記載されている `capture_environment.pl` ファイルの手順を参照)。
3. `root` としてログインします (または `root` になる)。

4. `capture_environment.pl` ツールを実行します。このツールは、ファイルを `archive_directory` という名前のディレクトリにコピーします。UNIX システムでは、すべてのファイルが `tar_file` という名前の `tar` ファイルに格納されます。ただし、Windows 2000 システムでは、`archive_directory` 内のファイルを手動で `Zip` ファイルに追加する必要があります。
5. `tar_file` または `Zip` ファイルをカスタマサポートに送信します。

---

## コメントの送付先

Sun では、常にマニュアルの向上を心がけ、ユーザーの皆様のご意見、ご提案をお待ちしております。ご意見等は、電子メールにて Sun の次の URL にお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

電子メールの「件名」にマニュアルの Part No. (817-7082) とマニュアルタイトル (Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 リリースノート) をご記入ください。

---

## Sun が提供しているその他のリソース

次のインターネットアドレスには、Sun Java System に関する役立つ情報が掲載されています。

- Sun Java System Calendar Server 6 のマニュアル  
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun Java System のマニュアル  
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun Java System のプロ向けサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System のソフトウェア製品とサービス  
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System のソフトウェアサポートサービス  
<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=help/collections>
- Sun Java System のサポートおよびナレッジベース  
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun のサポートおよびトレーニングサービス  
<http://www.sun.com/supporttraining>

- Sun Java System のコンサルティングおよびプロ向けサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System の開発者向け情報  
<http://developers.sun.com/prodtech/index.html>
- Sun の開発者向けサポートサービス  
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System のソフトウェアトレーニング  
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun のソフトウェアデータシート  
<http://www.sun.com/software>

---

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. 米国政府の権利 - 商用。政府内ユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および該当する FAR の条項とその補足条項の対象となります。

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。

Sun が提供しているその他のリソース